

東大和市災害ボランティアセンター協議会
平成30年度第5回定例会

日 時 2月18日（月）19：00～
会 場 東大和市社会福祉協議会会議室

開 会

1. あいさつ

2. 検討事項

- 1) 設置・運営訓練の反省と来年度に向けての検討
 - 当日の反省より
 - アンケート結果より
 - 出席者より
- 2) 2019年度事業計画について

3. 報告事項と今後の予定

- ・3/10(日) 防災フェスタ

4. その他

閉 会

次回 月 日（月）19：00～
会場 社会福祉協議会会議室

平成30年度災害ボランティアセンター設置・運営訓練の報告

去る1月20日(日) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しました。当日は、107名の方にご参加いただき、ハミングホールを中心として、市内各所に被災者宅や避難所に見立てた会場を用意し、災害時の被災者支援とボランティア活動について学びました。ご参加、ご協力いただきました皆様にお礼申し上げ、当日の様子をご報告いたします。

1. 日 時 平成31年1月20日(日) 8:30~16:20

【午前の部】…被災者役からの相談受付、訪問調査等

【午後の部】…ボランティア役受付、説明、西日本豪雨災害での活動報告、オリエンテーション・マッチング・送り出し、市内各所へ移動しボランティア体験、反省・講評等



2. 場 所 ハミングホール小ホール、エントランス、市内各所

3. 参 加 【全体】

1) スタッフ役(視察者含む)	22名
2) 被災者役	8名
3) ボランティア役	70名
4) その他の関係者	7名
合 計	107名

※主な所属団体：東大和青年会議所、南街・桜が丘地域防災協議会、湖畔地区自治会、向原地区自治会、狭山地区自治会、奈良橋自治会、東大和障害福祉ネットワーク、高齢者ほっと支援センター、民生・児童委員、東大和市役所、その他一般、関係者

【ボランティア参加者詳細】

<70名内訳>※在住地で集計

南街	16名	桜が丘	13名
湖畔	7名	向原	20名
仲原	3名	高木	2名
奈良橋	2名	狭山	1名
新堀	1名	清水	1名
立野	1名	戸畠	1名
関係者(学校職員等)	2名		

<70名内訳>※年代別で集計

30歳代	4名	60歳代	18名
40歳代	11名	70歳代	28名
50歳代	4名	80歳代	3名
記入なし	2名	※30~50歳代: 27. 9%	

4. 当日の反省会・講評・報告書より ※要約

【被災者役より】

- 認知症という設定で対応したが、ボランティアさんがうまく対応してくれた。
- ボランティアに気遣ってもらうなど、色々勉強になった。
- 色々支援をしてくれていい体験になった。
- 助けてもらえることが分かって安心した。

【ボランティア役より】

- 被災者の方に寄り添って、支援することが大事だと感じた。
- 訓練とはいえ、細やかな支援が必要だと感じた。
- たまたま中国語が出来るからと選んだ。要求をあまり確認しないで行ってしまったのが反省。
- 最低限5人はボランティア必要だと感じた。車いすの方は災害時にどのようなことに困るかが分かり、貴重な体験になった。
- 資料を先に配ってもらうとよりよかったです。見本になる人も先に決めるといい。
- メタンガスの発生の仕組みをしり面白かった。自治会として、地域の公園に汚物を埋めるなど検討していきたい。
- ニーズ受付の記入が少なく、必要な資機材持ち出しに時間がかかった。

【講評より】

- 課題は色々とあった。
- 災害はいつ発生してもおかしくない状況なので、日頃からの備えが大切。

5. 活動報告とアンケートからの意見

1) 結果と感想から

- 身体障害者に対するボランティア活動の難しさを理解した。
- 説明が長かった。時間配分を考えてほしかった。(多数あり)
- 休憩が入ったことにより、緊急時の緊張感がそがれることになったのが残念。
- 最初からボランティアセンターに参加の状態で行ってほしい。
- 障害、高齢などによるニーズについて、考えてた以上に細やかな対応が必要だと気づいた。多くの人が、具体的な災害の場面を地域で体感できたものと思う。
- 被災当初は力仕事のボランティアがかなり必要になると思うので、若手がもっと募れるように、市内中学校、高校にももっとアプローチされれば良いと思います。
- 子育て講座は色々参考になった。

6. 目的の達成状況

1) 若い世代の参加を促進し、ボランティア等関心を持って頂ける内容を加える。

→日曜日に開催したが、若い世代の参加は少なかった。お子さんがいる家庭などは長時間参加するのが難しいと思われる所以、そういう点の配慮を考えていきたい。実際に参加した若い世代の方からは、講座が参考になったとの感想も出ていたので、継続して実施していきたい。

2) 障害者等コミュニケーションに困難を伴う方々への支援について訓練に加える。

→外国人、障害者、認知症の事例を設け、コミュニケーションの難しさや、どういったことが困難になるのかを理解してもらえた。ただ、実際に関わるのが活動へ行った方のみになってしまふので、全体反省会で感想を共有し広めていきたい。

- 3) 西日本豪雨に災害VCの応援支援を行った職員より様子を話してもらい、具体的なイメージを持ったうえで、災害時の状況やVCの役割をより理解してもらう。
→参考になったという声と、話が長かったという双方の意見が出ていた。事務局立場として関心を持っていただけた内容だと思ったが、市民の方にはもう少し短めに伝えるべきだった。
- 4) 前年度参加した団体以外の新たな自治会等団体の参加を得る。
→本年度は奈良橋自治会に新たに参加を募ったが、参加者は少なかった。ハミングホールから遠い自治会に向けた事前周知等工夫が必要。
- 5) 市長、市議会等の理解を得て参加を得る。また市役所をはじめ関係機関との連携を一層強化する。
→市長の出席をはじめ、市の関係課等の参加を得ることができたが、市議会は得ることが出来なかった。早めに周知するなどし、参加を得るようにする。

7. 今後取り組みたいこと

- 1) マニュアルの修正すべき点
 - 各種様式の見直し
 - 事務局となる場の見直し
- 2) 今後の訓練に盛り込みたい内容
 - 災害時要配慮者の事例を継続的に入れていく。
 - ボランティア受付後などのスタッフ側の動きの確認。
 - 親子で参加できるプログラム(避難所支援Ⅰ等)の検討。